

筭川（こうがい川）
 西麻布文化の伏水流のような存在

この地域に歴史を求めることは余り意味がないのかも知れない。高台の武家屋敷でもなく、下町のにぎわいでもない。既に出来上がった高級地としての評価条件も見あたらないし、あの成長の熱気もここまでは到達しなかった・・
 いや、そうではない。都市河川の密なネットワークは、他と異なる有望な個性だ。そこに生まれるだろう、人に優しい曲がりくねった散歩道、地形や景色の変化を楽しむ坂道達、霊園に囲まれた特異性、注目すべきは眺望ばかりではないはずだ。

※筭（こうがい）：中国の髪飾り、櫛（くし）のこと。
 または、「三所物」と呼ばれる日本刀（脇差）の付属品のひとつ。

青山通りを最北端とし、青山通り両側のいくつかの水源を集め、南へ流れる川が筭川である。本流は、外苑西通りに沿ってその一皮うらを流れ、天現寺橋で、古川（渋谷川）に合流する。戦前に既にそのほとんどは暗渠化され、オリンピック前後に全てが暗渠となっている。そのことから伺えるのは、この地域の都市化と都市整備が先行的に成されたことである。**筭川は西麻布とその周辺の全てをつないでいることから、西麻布文化そのものである。暗渠化し人々の目に見えなくなって既に久しい今日、文化の伏水流として、知っておくべきだろう。**

1. 敷地周辺の水源
 青山通り、根津邸など

筭川の水源は、それほど離れていない。むしろ同じ地域内で極近いと言える。それは、西麻布交叉点から北に5カ所ほど記されている。青山通り外苑前駅付近を水源とする本流が青山霊園西縁を南下、旧町名による仮称だが、長者丸支流が南青山3-6当たりを水源に南下し、青山陸橋下あたりで本流に合流、共に青山霊園立山墓地東に沿って南下している。おそらく敷地の西側道路に沿って流れていたのだろう。さらにその南先で、根津邸（現根津美術館）の池から発する支流が合流している。霊園南端で霊園西側の支流が、西麻布交叉点の南で、星条旗通りの支流がそれぞれ合流している。

2. 都市河川に沿って
 坂道と谷道がまちをつなぐ

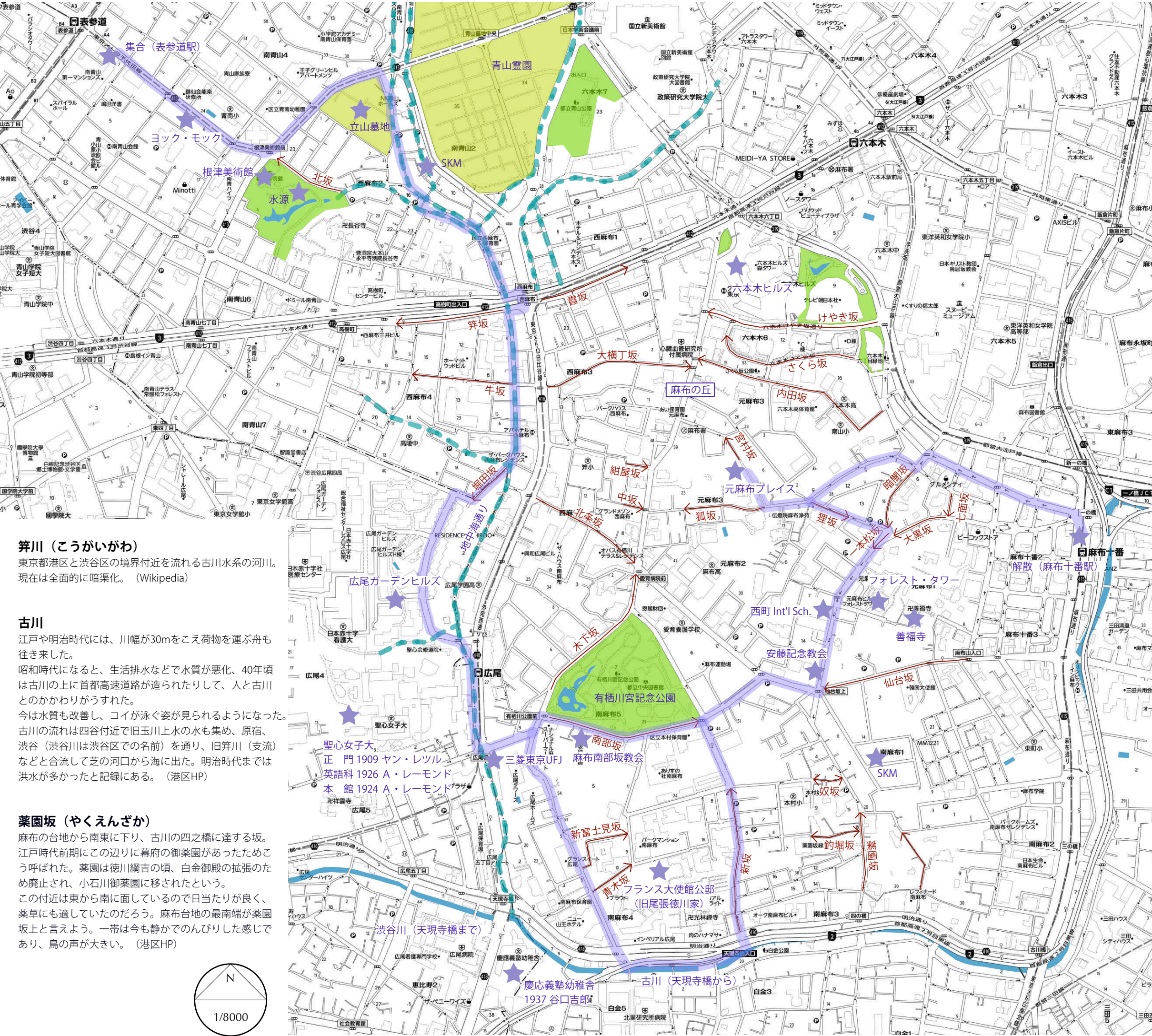
こうしてみると、筭川上流地区は、南青山と西麻布を谷でつなぐネットワークを形成していたことがよく分かる。暗渠の上は川の流れのままに曲線を描く水路敷きや坂道となっているだろうから、**今日では歩行者にとって格好な散歩道となる。時代と共にやがて整備され、その個性が評価される、そんな地域と言えそうだ。**

3. 青山霊園
 都心の空白地、その向こうに見えるもの

計画敷地は、東側を都立青山霊園に、西側をその分院立山墓地と道を隔てて接している。それらは、敷地からは10m前後の高台を成し、その先の尾根は東は皇居まで、西は明治神宮まで続く。間は神宮外苑、いずれも東京最良の地域だ。**広い霊園の緑地は、一切建物が建つことのない空白地帯**であり、従って3〜4階以上からの眺望は、広く水平に開けるだろう。東にヒルズ、ミッドタウン、北に青山通り、西に御幸通りから表参道のきらめき、背後に渋谷のにぎわいが手に取るように見て取れる。**そう、ここは東京の中心、ハートのような場所、ある意味誰もその価値に気がついていない解放区なのかも知れない・・。**



筭川（こうがい川）流域図



筈川（こうがいがわ）

東京都港区と渋谷区の境界付近を流れる古川水系の河川。
現在は全面的に暗渠化。（Wikipedia）

古川

江戸や明治時代には、川幅が30mをこえ荷物を運ぶ舟も往き来した。
昭和時代になると、生活排水などで水質が悪化、40年頃は古川の上に首都高速道路が造られたりして、人と古川とのかかわりがうすれた。
今は水質も改善し、コイが泳ぐ姿が見られるようになった。
古川の流れは四谷付近で旧玉川上水の水も集め、原宿、渋谷（渋谷川は渋谷区での名前）を通り、旧筈川（支流）などと合流して芝の河口から海に出た。明治時代までは洪水が多かったと記録にある。（港区HP）

薬園坂（やくえんざか）

麻布の台地から南東に下り、古川の四之橋に達する坂。
江戸時代前期にこの辺りに幕府の御薬園があったためこう呼ばれた。薬園は徳川綱吉の頃、白金御殿の拡張のため廃止され、小石川御薬園に移されたという。
この付近は東から南に面しているので日当たりが良く、薬草にも適していたのだろう。麻布台地の最南端が薬園坂上と言えよう。一带は今も静かでのんびりした感じであり、鳥の声が大きい。（港区HP）



最初のアメリカ公使宿館跡／善福寺

安政6年6月、初代アメリカ公使として下田からハリスが到着しました。
昭和11年日米協会によって建てられたハリスの記念碑があります。
また当時の寺僧の記録「垂墨利加ミニストル旅宿記」（区指定）が残されています。（港区HP）

善福寺のイチョウ

目通り幹囲約9m、高さ19mの善福寺のイチョウは俗に逆さイチョウと呼ばれています。
樹齢約700年と推定され都内で最古のものとして国天然記念物の指定を受けています。
伝説によると、善福寺に立ち寄った親鸞が、寺を去るとき、持っていたイチョウの杖を境内の土に立てて、この杖を根づかせてみせるぞ、という意味で「念仏の求法、凡夫の往生もかくの如きか」といったといわれ、はたして杖は見事に根づいて、今日みえるような巨木に育ったといえます。なお、この木は、終戦後にいったん枯死したかに見え、天然記念物の指定を取り消されましたが、住職らの尽力で異例の再指定となり奇跡的によみがえった事実があります。（港区HP）

港区立筈小学校校名の由来

■第1の説

「江戸砂子」という古文書によれば、昔、天慶の乱（939年）に源経基が、竜川（筈川）を渡るとき、見張りの武士に通行を断られました。そこで、経基は、味方の証拠として刀の筈（こうがい）を与えて、やっと通ることができたそうです。その後、この橋を鈎鉋（こうがい）橋と改められ、それが筈（こうがい）橋に変わったということです。

■第2の説

「再校江戸砂子」では、徳川家康が、江戸に幕府を開いた際、このあたりに甲賀、伊賀組に屋敷を下されたので、その橋を甲賀伊賀（こうがいが）橋と唱えたとあります。それがその後、筈橋と呼ばれるようになったそうです。
そのほかにも香貝（こうがい）橋や国府方（こうがた）橋、小貝（こがい）橋などから変わってきたという説もあります。
その他にも諸説があります。（港区立筈小学校HP）

日本基督教団安藤記念教会会堂

東京都指定歴史的建造物

建設年：大正 6（1917）年 設計者：吉武 長一
震災前に竣工した教会堂の貴重な例。大谷石（一部小松石）の組積造の建物で、道路に面したアーチ型の窓にはステンドグラスが嵌め込まれている。（東京都HP）

西町インターナショナルスクール（松方ハウス）

東京都指定歴史的建造物

建設年：大正 10（1921）年 設計者：W・M・ヴォーリーズ
明治の元勳松方正義の子、正熊の自邸として建てられた。大きな壁面の色調を押さえ、底の垂木や窓回り部分を白色のペイント塗りして際立たせている。（東京都HP）

麻布南部坂教会

建設年：大正 7（1918）年 設計者：W・M・ヴォーリーズ
改修年：平成 8（1996）年
特徴的な木造トラス、内装と統一されたデザインで作られた講壇家具など、往時の教会の雰囲気が今もよく保たれている。
会衆席：56席
一粒社ヴォーリーズ建築事務所設計により改修（同社HP）

麻布の丘を巡る筈川と古川

都市河川の歴史と現在

日本建築家協会関東甲信越支部
2016.7.16 城北地域会



麻布の丘を巡る筈川と古川
都市河川の歴史と現在

日本建築家協会関東甲信越支部
城北地域会
2016.7.16



7244 90485 M449 944 CM 8 SEP 1947 27

整理番号：USA
コース番号：M449
写真番号：72
撮影年月日：1947/09/08(昭22)
撮影高度(m)：1524
撮影縮尺：9987
焦点距離(mm)：152.600
撮影計画機関：米軍
出典：国土地理院
地図・空中写真閲覧サービス

麻布の丘を巡る筈川と古川
都市河川の歴史と現在

日本建築家協会関東甲信越支部
2016.7.16 城北地域会



麻布の丘を巡る笄川と古川

都市河川の歴史と現在

明治42 (1909) 年

日本建築家協会関東甲信越支部

2016.7.16

城北地域会



麻布の丘を巡る斧川と古川
都市河川の歴史と現在
大正10 (1921) 年
日本建築家協会関東甲信越支部
2016.7.16 城北地域会



麻布の丘を巡る斧川と古川

都市河川の歴史と現在

昭和12 (1937) 年

日本建築家協会関東甲信越支部
2016.7.16 城北地域会



麻布の丘を巡る筈川と古川

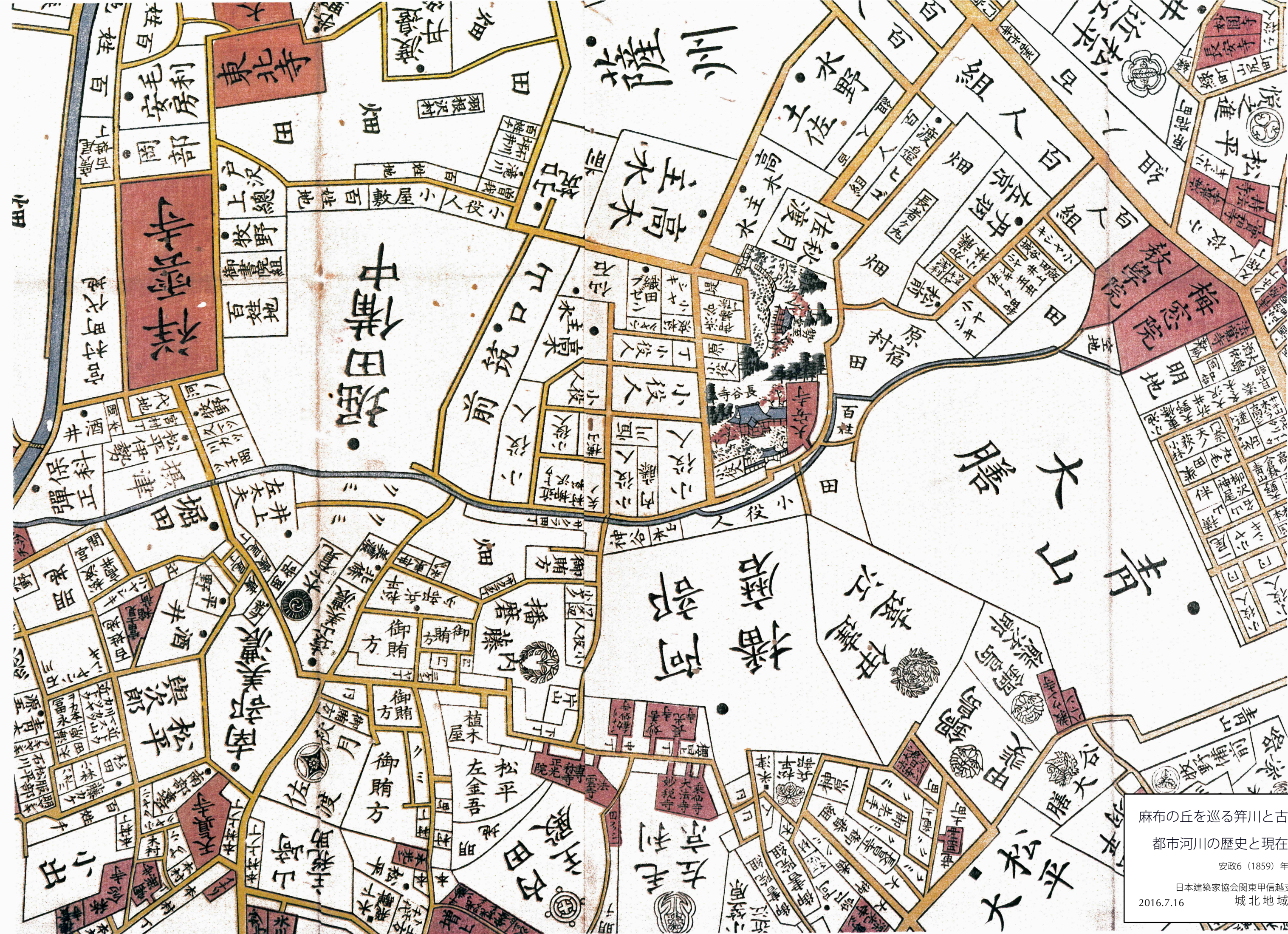
都市河川の歴史と現在

昭和20 (1945) 年

日本建築家協会関東甲信越支部

2016.7.16

城北地域会



麻布の丘を巡る筈川と古川
都市河川の歴史と現在
安政6（1859）年
日本建築家協会関東甲信越支部
2016.7.16 城北地域会